

木造薬師如来坐像

もくぞうやくしによらいざぞう

市指定

所在地：小枕



面相は円満で整っており、彫出された目や唇に彩色を施している。頭部の肉髻は大きく、螺髪は切付螺髪で古様を示す。頸の三道や衣文線が深く刻まれ、膝は大きく張っている。平安時代前期の仏像の特徴である量感にはやや欠けるが、全体的に安定感がありかつ整った仏像である。

彫成は、内割りがなく、体幹をヒノキ材の一木で彫り出し、両肘と膝部を別材で寄せている。耳先、右肘から先、左手首、裳先部は後補である。

もと山岳修験の行場檜ヶ峯に祀られていたのが、天正の兵乱を避け、現在地（春日神社）に移したとされる。

平安時代後期。像高87cm。